

# 反省とお願いをかねて

通信連絡委員会

「研究通信」が村落社会研究会の中で持つ意味は

- (一) 会員の連絡、情報交換。
  - (二) 会費相互の自由な討論の場
  - (三) 会費の便宜化
- の大体三つに要約できると思います。そこで今迄私共は会費各社からの御送付頂いた記事をそのまゝすべて掲載することに努め、研究団体であるという点から論議なり主張並びにこれをのせむいことにして居ります。

然し殊に残念なことながら「三号新聞」になつてしまひそうは傾向が強く、私共の力の不足を痛感している次第です。即ち本部記事が版面の多くを蔽ひ、自由な討論を発展的に提議して行くという方向をとれませんでした。これを如何に挽回しないものとなること必至であります。

この「研究通信」はあくまでも研究者の通信連絡紙であるならば、もっと多くの

の研究の成果や、報告、予定(計画)、疑問、討論が版面をうめなくてはなりません。この会が村落研究の方法的統一なり、概念の統一なりをのぞんで居ります以上、こうした記事は必ずかくべからざるものでありまして、もしこれが無いと全く「おぬけのからし」になつてしまふわけであります。

そこで私共は今までの非力を一て、ぎして、特集さえも出していくような決意をえ持ち始めました。(たとへば諸組織との同族結合に類して等の)

そうした私共の反省とこれからの方針にあつたので、会費の監視にこの上ない権力をお願ひする次第です。

具体的な提案として次に掲げます各項について願ひ、関係をお持ちの方はすみやかに記事をお送り下さいませよう。御願ひ致します。そうすること各色々の御社判にこたえる途だと(会費が一体になつて)考えるからです。

- (一) 「研究通信」についての希望、懇願
- 批判

(二) 自己の方法的な問題疑問、商榷の提案

- (三) 今年度の研究、調査の主題と予定。
- (四) 各大学に於ける各地方におけるローカルカラーを持つたレポートエエ風のものを(これは一編を設けて特選りにします)

(五) かり版にのせるような、或はそれ以外の社会時評的の記事

以上であります。私共は私共の考えを以て版面割付けの一定のフォームを作り、編集部の専断とインシヤテースを確立したいと考えて居りますので、願ひのなりぬいて「通信」とする願、とかく研究者にかけている協力と同様の精神と自主的行動力をこの「研究通信」では扱ひできません。敬願おねてお願ひ致します。(C)